



石巻市長 亀山 紘

年頭のごあいさつ

平成28年の年頭に当たり、謹んで新年のごあいさつを申し上げます。

東日本大震災から間もなく5年が経過しようとしておりますが、いまだに不自由な生活を余儀なくされている多くの被災者の皆様に対し、心からお見舞い申し上げます。また、復旧・復興事業が本格化する中、市民の皆さまから心強いお力添えを頂き誠に感謝いたします。

昨年は、5月の仙石線の全線復旧・仙石東北ラインの開通をはじめ、9月の水産物卸売市場石巻売場（石巻魚市場）の全棟供用開始、11月の新蛇田・新渡波等6地区の「まちびらき」開催等、復旧・復興の節目となるような出来事が数多くございました。また、復興公営住宅の入居や、蛇田、渡波地区の土地画整理事業における宅地供給、離半島部における防災集団移転事業での宅地の引き渡しなどが本格化する等、「住まいの再建」が大きく前進いたしました。さらに、本市産業の活性化

を図りながら、人口減少を阻止・克服し、安全・安心な暮らしを実現するため、「石巻市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を昨年12月に策定しました。震災からの復旧・復興事業を早急かつ着実に進めるとともに、少子高齢化や人口減少等の課題の解決に向けて全力で取り組んでまいります。本年は、昨年に引き続き、復興公営住宅への入居や防災集団移転事業での宅地引き渡しが進む予定であり、また、市立病院の開院と夜間急患センターの開設も予定されており、生活基盤の復旧・復興とともに、医療体制についても整備が進むこととなります。本年は新たに「復興・創生期間」がスタートする節目の年となります。市民の皆さまをはじめとする、全国そして世界中の皆さまからのご協力・ご支援により、復旧・復興は新たなステージへと展開していきます。今後も強い決意をもって復旧・復興を成し遂げ、まち・ひと・しごと創生に向けて取り組み所存です。新たな年を迎え、ふるさと石巻の再生・発展に向けて全力を尽くしてまいりますので、市民の皆さまのご協力をお願いいたしますとともに、ご多幸をお祈り申し上げます。新年のごあいさつとさせていただきます。



近藤 蒼さん
河南地区・平成16年生まれ

全国大会への出場が目標

昨年一番の思い出は花山合宿で友達と一緒にカレー作りや沢遊びをしたことです。学校では好きな理科や図工、体育の授業を頑張りました。1年生から所属しているミニバスケットボールチームの河南ディアーズで練習も一生懸命やりました。今年は、もっとバスケットを練習したいです。シュートをたくさん決めて、全国大会に出場したいです。今年は6年生になるので低学年の面倒を積極的に見ていきたいと思っています。



渡邊 恵理さん
河北地区・平成4年生まれ

スキルアップを目指して

服飾関係の仕事に就いて今年で3年目を迎えます。これまではさまざまなことを覚えていくのに集中してきましたが、今年はさらに知識や経験を重ねてチームワークを大切に業務にあたっていきます。家族や友人たちとはなかなか休日合わないのですが、日帰り旅行でドライブに出かける等、身近な人たちとの時間も大事にしていきたいです。健康食に興味があり、趣味の部分でも幅広くスキルを磨いていこうと思います。



今年 申
年男・年女の皆さんに今年の抱負や将来の夢を伺いました。

干支の特徴

頭の回転が早く、人を笑わせるのが好きなため、いつも周囲には多くの仲間が集まります。常に新しいものを求めて挑戦する心と行動力を備えています。今年もチャレンジ精神でまい進することでしょう。

サルに関することわざ

「猿に絵馬」
取り合わせのよいものたのたえ。昔は猿を馬小屋の守護とする信仰があり、農家では「申」と書かれた紙を馬小屋に貼っていた。また、正月や祭りでは猿が馬をひくところの描かれた絵馬や神札が用いられた。



佐藤 由美子さん
北上地区・昭和31年生まれ

地域と家族の絆を大切に

地元の小室地区で定置網の網おこしやワカメの袋詰め等、海に関わる仕事に30年以上携わってきました。自宅が震災で被災したため高台移転となり、住む場所は変わりましたが、家族や地域の人たちと一緒に以前と変わらず楽しく過ごしています。今年は仕事を続けながら、獅子舞等の地域のイベントで親睦を深めていくとともに、孫が野球のスポーツ少年団に所属しているので、試合の観戦も楽しみにしています。



鈴木 邦夫さん
雄勝地区・昭和7年生まれ

ひ孫の健やかな成長願う

昨年は健康にも恵まれ、更には一昨年誕生したひ孫も1歳を迎え喜びと活気に満ちた1年でした。趣味で始めた竹細工は、波板地域交流センターで展示、販売され、日常では妻と共に畑仕事や海・山の幸を収穫したりと、雄勝の四季折々を感じながら日々楽しく張り合いのある生活を送ることができました。ますますかわいくなるひ孫の成長を楽しみに、今年も健康で昨年同様充実した日々を送られたらと願っています。



古内 勝治さん
牡鹿地区・昭和19年生まれ

復興へ向かって一歩ずつ

おしかのれん街で寿司店を営んでいます。まだまだ復興途上の牡鹿地区は人口減少等もあって先の見えない状況ですが、家族や地域で団結して乗り切りたいです。住宅が徐々に建ち始める今年は、ようやくスタートラインについたと感じます。一歩ずつ着実に復興へ向かい、観光のまちである鮎川を復活させていきたいです。また、趣味のグラウンドゴルフも続けて、地域の皆さんと交流しながら楽しみたいですね。



今野 秋桜さん
石巻地区・平成16年生まれ

川開きでの演奏楽しみ

昨年の思い出は所属するミニバスケットボールチームが下級生交流大会で3位に入賞したことです。頑張って練習したことで、優秀選手賞をもらうこともできました。学校の授業では、図工の時間に校庭の桜の絵を上手に描きました。今年はバスケットでシュートを確実に決められるように練習したいと思っています。また、鼓笛隊では希望していたトランペットを演奏することになり、川開き祭りに向けてしっかり練習したいです。



本間 聖子さん
石巻地区・昭和55年生まれ

子育ても仕事も充実を

美容関係の仕事に就いて15年が経ちました。その間に3人の子どもにも恵まれて忙しい日々を過ごしています。昨年は本当にあっという間に過ぎた1年でした。今年はずっと家族と過ごす時間を増やして、旅行等に行きたいと思っています。それに加えて仕事にも一段と力を入れていきたいです。子どもがいても、定年を迎えても、輝く女性たちが地域に増えるように応援していくことが今年の目標です。



鈴木 康文さん
桃生地区・昭和43年生まれ

復興と安寧の一年に期待

郵便局員として市内です仕事をしていきます。震災から徐々に復興していく地元の姿を見ながら、私自身も一助になればと励んできました。今年もその心を忘れずに、まい進していきたいです。家族との時間も人生にとって大事なものです。母、妻、小学6年生の息子、3年生の娘と暮らしており、一緒にいる時間を多く作り、絆を深めることを心がけたいです。趣味の日曜大工やドライブも楽しみながら1年を過ごせれば幸いです。